

# 月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

569号

令和5(2023)年12月

## アサリの研究が全国水産試験場長会会長賞を受賞しました！

企画情報部 企画普及グループ

漁業生産研究所栽培漁業グループの日比野学主任研究員による研究業績「愛知県海域におけるアサリ資源の減少要因と回復策に関する研究」が令和5年度全国水産試験場長会の会長賞を受賞し、2023年11月16日(火)に鹿児島県で開催された全国大会で受賞記念講演を行いました(図1及び2)。

全国水産試験場長会は全国の水産試験研究機関の長から組織されており、地域の水産業の発展に大きく貢献すると認められる業績等を会長賞として表彰しています。

本業績では、アサリ資源の減少は肥満度の低下に起因する秋冬季の大量減耗が大きな原因であり、餌料環境の悪化の影響に加えて気象・海象要因が複合的に作用していることを明らかにしました。一方で、資源回復策として碎石覆砂によるアサリへの有効性を明らかにして、事業化につなげるとともに、生分解性網袋を活用した新たなアサリ保護育成技術の開発を民間企業と共同で進めています。また、本県では下水道処理施設における栄養塩管理試験運転が進められていますが、本業績で示された餌料環境の重要性は、この取組の科学的根拠として、漁業者を始め関係者の共通認識となりました。

本業績を反映した施策や漁業者による取組の結果、西三河地区ではアサリ漁獲量の増加が認められており、愛知県だけでなく全国のアサリ資源回復のモデルケースとなることが期待され、地域の水産業の発展に大きく貢献するとして、高く評価されました。



図1 表彰状を受け取る日比野主任研究員(右)



図2 表彰状

## キンギョヘルペスウイルス病に耐性のあるオランダシシガシラが出荷されました

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

キンギョヘルペスウイルス病は死亡率が非常に高い疾病で、キンギョの生産に大きな影響を与えています。当グループでは、この疾病による被害を軽減するために、耐性を持つキンギョの選抜育種を行っています。これまで本疾病の原因ウイルスへの感染試験を繰り返し、高い生残率が維持されたオランダシシガシラの系統を親として今年の春に採卵し、この稚魚を弥富市周辺の養殖業者2軒に試験配付しました。このうち、1軒の業者がこのオランダシシガシラを出荷し、アンケート調査を実施したところ、歩留まりが良く、丈夫であると評価されました。さらに、本系統はオランダシシガシラの特徴である肉瘤が早くから発達する特徴を持ち、これまでの系統よりも早く出荷できて高い値がついたことから、見た目や価格についても高評価を得ました。

今後も病気に強いキンギョの品種開発を継続していきます。



図3 耐病性オランダシシガシラ

## 大豆イソフラボンを用いて生産した大型雌ウナギの評価

内水面漁業研究所 内水面養殖グループ

当グループでは、一色うなぎ漁業協同組合等と協力し、実際の養殖場において、大豆イソフラボンを使った大型雌ウナギ生産の実証試験を行っています(水試ニュース 546号)。

今後の販売が予定されている大型雌ウナギのPRを行うため、8月23日~25日に東京ビッグサイトで開催されたジャパン・インターナショナル・シーフードショーに出展しました(図4)。出展ブースでは、大型雌ウナギと従来の養殖ウナギ(通常サイズの雄ウナギ)の試食を行い、訪れたバイヤー等に食べ比べた感想(柔らかさ、匂い、好み等)を聞き取りました。その結果、大型雌ウナギの方が全体的評価が高く、特に柔らかさが際立っていました(図5)。また、「雄ウナギより脂がのっている」「味が全然違う」といった感想もありました。

実証試験で生産された大型雌ウナギは、年明けに一色うなぎ漁業協同組合等の直営店で限定販売を行う予定です。

なお、本試験はイノベーション創出強化研究推進事業(体系的番号 JPJ007097)で実施しています。

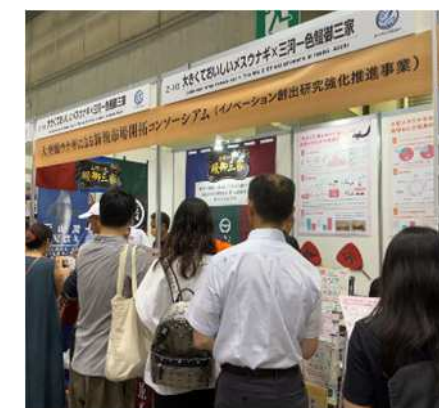


図4 シーフードショーの様子

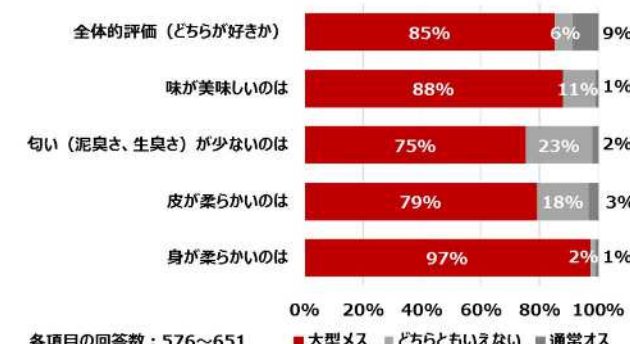


図5 聞き取りの結果

